

女と男、 情感の美大学



加藤 泰

35ミリ・カラープリント

「緋牡丹博徒 花札勝負」「明治侠客伝 三代目襲名」「番掛時次郎 遊侠一匹」
 「車夫遊侠伝 喧嘩辰」「幕末残酷物語」「日本侠客伝 ざ・鬼太鼓座」
 「人生劇場 青春愛恋残酷伝」
 「花と龍 青春愛恋残酷物語」「宮本武蔵」
 「別冊 羅生門 予告編」



プログラム・ピクチャーの最高峰を極めた魂のシネアスト、加藤泰。
 幻の「ざ・鬼太鼓座」を含む代表作23作品を連続上映！

加藤泰。

●上映スケジュール……各回入替制

メインプログラム					サブプログラム
10/22(土)~10/28(金)	12:40 花札勝負	2:50 遊侠一匹	4:50 喧嘩辰	7:00 三代目襲名	9:00 臉の母
10/29(土)~11/4(金)	11:50 三代目襲名	1:50 日本侠客伝	4:50 遊侠一匹	6:50 花札勝負	9:00 お竜参上
11/5(土)~11/11(金)	12:40 幕末残酷物語	2:50 喧嘩辰	5:00 三代目襲名	7:00 遊侠一匹	9:00 お命戴きます
11/12(土)~11/18(金)	11:50 遊侠一匹	1:50 三代目襲名	3:50 日本侠客伝	6:50 幕末残酷物語	9:00 風と女と旅鴉
11/19(土)~11/25(金)	11:30 喧嘩辰	1:40 花札勝負	3:50 幕末残酷物語	6:00 日本侠客伝	9:00 みな殺しの霊歌
11/26(土)~12/2(金)	11:30 日本侠客伝	2:30 幕末残酷物語	4:50 花札勝負	6:50 喧嘩辰	9:00 江戸川乱歩の陰獣
12/3(土)~12/9(金)	12:10 ざ・鬼太鼓座	2:20 ざ・鬼太鼓座	4:30 ざ・鬼太鼓座	6:50 ざ・鬼太鼓座	9:00 12/3(土)~5(金) 男の顔は履歴書 12/6(火)~8(木) 阿片台地
12/10(土)~12/16(金)	12:10 ざ・鬼太鼓座	2:20 ざ・鬼太鼓座	4:30 ざ・鬼太鼓座	6:50 ざ・鬼太鼓座	9:00 12/10(土)~12(月) お岩の七霊 12/13(火)~16(金) 昭とおんな博徒
12/17(土)~12/19(月)	11:40 人生劇場	3:00 花と龍	6:20 トークショー他	8:20 炎のごとく	
12/20(火)~12/23(金)	10:50 花と龍	2:00 宮本武蔵	5:00 炎のごとく	8:00 人生劇場	

10月22日(土)より独占公開！
ユロペーネ
 渋谷駅南口下車二分 JTB前々々通CINEMA TEL. 03(3461)0211

●「加藤泰、映画を語る」
 講演・インタビュー一三本、
 長編連載エッセイ収録
 (山根貞男・安井喜雄編)

●「加藤泰映画集」
 加藤泰エッセイ、シナリオ。そして、自身
 の発言、関係者の証言にて構成する加藤泰
 の全世界。
 ワイス出版 予価四九〇〇円

●「加藤泰絵コンテ集」
 「緋牡丹博徒・お命戴きます」絵コンテ、
 「お竜参上」シナリオ他(限定五〇〇部)
 北冬書房 予価三五〇〇円

●ビデオ「鬼太鼓座」
 発売中(三三〇〇円)
 九三年のアメリカ公演を収録
 (株)エス・ツウ
 TEL. 〇三(三五八六)二五九五

●「加藤泰映画集」
 筑摩書房 定価二五〇〇円

●「加藤泰映画集」
 加藤泰エッセイ、シナリオ。そして、自身
 の発言、関係者の証言にて構成する加藤泰
 の全世界。
 ワイス出版 予価四九〇〇円

●「加藤泰絵コンテ集」
 「緋牡丹博徒・お命戴きます」絵コンテ、
 「お竜参上」シナリオ他(限定五〇〇部)
 北冬書房 予価三五〇〇円

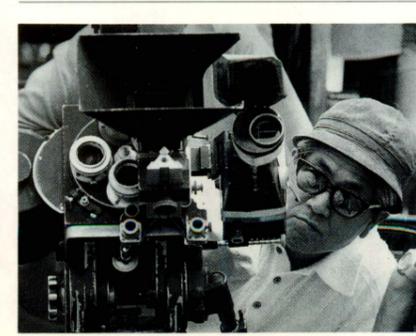
●ビデオ「鬼太鼓座」
 発売中(三三〇〇円)
 九三年のアメリカ公演を収録
 (株)エス・ツウ
 TEL. 〇三(三五八六)二五九五

●「加藤泰映画集」
 筑摩書房 定価二五〇〇円

●「加藤泰映画集」
 加藤泰エッセイ、シナリオ。そして、自身
 の発言、関係者の証言にて構成する加藤泰
 の全世界。
 ワイス出版 予価四九〇〇円

●「加藤泰絵コンテ集」
 「緋牡丹博徒・お命戴きます」絵コンテ、
 「お竜参上」シナリオ他(限定五〇〇部)
 北冬書房 予価三五〇〇円

●ビデオ「鬼太鼓座」
 発売中(三三〇〇円)
 九三年のアメリカ公演を収録
 (株)エス・ツウ
 TEL. 〇三(三五八六)二五九五



●「加藤泰映画集」
 加藤泰エッセイ、シナリオ。そして、自身
 の発言、関係者の証言にて構成する加藤泰
 の全世界。
 ワイス出版 予価四九〇〇円

●「加藤泰絵コンテ集」
 「緋牡丹博徒・お命戴きます」絵コンテ、
 「お竜参上」シナリオ他(限定五〇〇部)
 北冬書房 予価三五〇〇円

●ビデオ「鬼太鼓座」
 発売中(三三〇〇円)
 九三年のアメリカ公演を収録
 (株)エス・ツウ
 TEL. 〇三(三五八六)二五九五

女と男を描き続けた映画作家、加藤泰

加藤泰

女と男、情感の美学

プログラム・ピクチャ全盛期において日本映画の最高峰を極め、数多くの傑作を残した加藤泰。

ローアングルのカメラ、シンクロ録音、ノーメイクの役者といった手法で人間を描いて、女と男の情感、体制に対する憤怒を映像美にまぎれ華させた彼の作品は、常に人間を見つめるまなこによる緊迫感にあふれ、香掛時次郎・遊侠一匹での独自場面や緋牡丹博徒・お竜参上での雪の今戸橋などの名場面をつくりあげてきた。

特集上映「加藤泰／女と男、情感の美学」では、代表作六本を二五ミリ・ニュープリント化し、そして、完成後一三年間にわたって未公開であった遺作「鬼太鼓座」の特別上映を行う。「鬼太鼓座」は監督自身が死去の直前まで公開を切望した作品であり、加藤泰の映像美学の結晶ともいべき作品である。唯一のTV演出作品を始めとする貴重な映像までも網羅した全三作品におよぶプログラムは、世界的再評価の幕開けにふさわしいものとなる。

いつの時代でも変わらぬ、女と男を描いた彼の作品は、現代、そして未来においても常に魅力的でありつづけるのである。

メインプログラム

『軍夫遊侠伝 喧嘩辰』

一九四四年／東映京都／ワイド／白黒／九〇分
原簿：紙屋五平 脚本：加藤泰 鈴木則文
撮影：川崎龍太郎 照明：井澤一
美術：井川徳造 音楽：高橋半 出演：内田忠雄、松田定次、近衛十四郎、河原崎長一、藤村トシ子、千原しのぶ

●やがて夫婦の恋愛を離れ、その両者の世界のしがらみを横糸にして、二つが見事に絡み合った、やがて映画史上に残る傑作中の傑作。木屋辰一家の三代目を襲名し、渡世の徒と近代化の波に苦悶する朝太郎役を船田浩二が好演している。一日間という短期間で撮影されたのが信じられないほど、各シーンが情感にあふれ、な

かでも、藤純子が川辺で船田浩二に桃を渡す場面は忘れがたい。

『香掛時次郎 遊侠一匹』

一九六八年／東映京都／ワイド／カラー／九〇分
原簿：長谷川伸 脚本：鈴木則文、掛札昌裕
撮影：古谷伸 照明：中山治雄 美術：井川徳造
音楽：吉田正一 出演：中村錦之助、池内淳子、早代次、澤村国太郎、岡譲明

●冒頭の浜辺での斬りあいから、ラストで時次郎が刀を捨てる場面まで、名シンの連続の傑作。やがて稼業の時次郎は、一宿一飯の恩義のために斬った男の女房と子供と共に旅をするうちに、彼女に好意を寄せ、彼女の病のため再びドスを抱える……。渾美清演ずる朝吉が惨殺される場面は哀切感にあふれ、時次郎が宿屋で心を語るシーンの美しさはとてつなし、加藤泰映画のなかでも一二を争う、白眉である。

『緋牡丹博徒 花札勝負』

一九六九年／東映京都／ワイド／カラー／九八分
原簿：石本久吉 脚本：鈴木則文、藤田五五
撮影：古谷伸 照明：金子勲 美術：富田治郎
音楽：渡辺英夫 出演：藤純子、高倉健

●藤純子、高倉健という大スターの顔合わせで描く、シリーズ最高傑作。名古屋の西之丸一家にワラジを脱いだお竜は、金原一家のあまりに非道なやり方に業を煮やし、ついに、金原一家へ殴りこむ。主役二人のスター性、汐路草、沢淑子を始めとする個性的な脇役陣、完成された映像美が見事にかみ合っている。なかでも藤純子と高倉健

の手が触れ合う場面は、シリーズ屈指の名場面。

『日本浪花伝』

一九七三年／東映京都／ワイド／カラー／一四七分
原簿：加藤泰 脚本：加藤泰、村井博
撮影：小宮一 美術：阿久根敏 音楽：鈴木則文
出演：真木洋子、渡辺史、任田順好、菅我道徳、加藤剛、安部徹

●加藤泰単独オリジナル脚本の唯一の映画化作品であり、後期の代表作。作家志望の青年と無理心中をはかった近藤ミネは、助けられた親分と結婚するが、侠客・清次郎と出会い、次第に心ひかれてゆく……。社会の規範に縛られない、能動的なヒロインを体当たりで演じる真木洋子が印象的であり、彼女を支える渡辺史、任田順好も好演。

サブプログラム

『風と女と旅鴉』

一九五八年／東映京都／白黒／九一分*一六〇分
脚本：坂島寛 出演：中村錦之助、三国連太郎
●ローアングルのカメラ、ノーメイク等の独自のスタイルが確立し始めた出世作。

『怪談 お岩の七霊』

一九六一年／東映京都／白黒／九四分
脚本：加藤泰 出演：若山富雄、松田定子
●監督自身が最も気に入っていた二作。桜町弘子が加藤泰映画に初登場。

『顔の母』

一九六二年／東映京都／カラー／八三分

●脚本：加藤泰 出演：中村錦之助、木暮実千代
●長谷川伸原作、中村錦之助主演、加藤泰監督という三拍子揃った、文句なしの名作。

『男の顔は履歴書』

一九六六年／松竹／カラー／八五分
脚本：黒川彌吉、加藤泰 出演：安藤昌、中野実
●安藤昌主演、戦中三部作の第一作。現在過去、大過去が交錯する構成が素晴らしい。

『阿片台地 地獄舞台 突撃せよ』

一九六六年／ソルゲン／カラー／九一分
脚本：岡譲明、加藤泰 出演：安藤昌、津島勲
●「男の顔」の直後に製作された第二作。北支戦線を舞台に、極限状態での人間を描く。

『みな殺しの霊歌』

一九六八年／松竹／白黒／九二分
脚本：三村謙太郎 出演：佐藤允、徳島千景
●モノクロのアップを多用した映像で全編を押し通す力作。故大和屋も絶賛した。

『緋牡丹博徒 お竜参上』

一九七〇年／東映京都／カラー／一〇〇分
脚本：鈴木則文、加藤泰 出演：藤純子、菅原文太
●藤純子と菅原文太の雪の今戸橋のシーンがあまりにも有名な、シリーズ第六作。

『緋牡丹博徒 お命戴きます』

一九七一年／東映京都／カラー／九二分
脚本：大和久正、鈴木則文、加藤泰
●公書問題を取り入れて、新味を出した第七作。立ち回りの藤純子の美しさが絶品。

『昭とおんな博徒』

一九七二年／東映京都／カラー／九一分

〈三年間封印されていた幻の『鬼太鼓座』ついに特別上映〉

『鬼太鼓座』

一九八二年製作／テレビ朝日朝日放送／ワイド／カラー／一〇七分
脚本：中島龍雄 撮影：丸山龍男
出演：野田正博、美穂、梅田千代天、美穂子、横山忠則、野田正博、一柳雅也、鬼太鼓座、森田

●加藤泰の遺作であり、完成から三年間、正式公開されなかった幻の作品。「鬼太鼓座」の諸君の演奏の再現と暮しの追体験を、克明に映した絵と音と、それから飛脚とせられたイメージの絵と音の断片連を選択し、モニターで流した映画「鬼太鼓座」の監督自身が語る通り、単なるドキュメンタリー映画ではなく、まさしく加藤泰の映像美学の結晶ともいべき作品となっている。

『人生劇場 青春 愛慾 残侠篇』

一九七三年／松竹／カラー／一四七分
脚本：野村芳太郎、三村謙太郎、加藤泰
出演：竹脇忍我、渡辺史
●オールスターキャスト、練られた脚本、演出力が見事に旨く仕上がった。

『花と龍 青雲 愛憎 怒濤篇』

一九七三年／松竹／カラー／一四八分

●脚本：加藤泰、三村謙太郎、野村芳太郎
出演：渡辺史、香山美子

『宮本武蔵』

一九七三年／松竹／カラー／一四七分
脚本：野村芳太郎、中津泉
出演：高橋英樹、松坂慶子
●武蔵の肉体的な面に焦点を当てた、松竹三部作の最後を飾る、みずみずしい大作。

『江戸川乱歩の陰獣』

一九七七年／松竹／カラー／一四八分
脚本：加藤泰、仲島龍雄
出演：若山富雄、香山美子
●江戸川乱歩の世界を、拘欄たる映像美で構築した異色作。香山美子が好演。

『炎のごとく』

一九八二年／大和ハウス／カラー／一四七分
脚本：加藤泰 出演：菅原文太、徳島千景
●劇場映画最後の作品。一人の女を愛し続ける博奕打ちの人生をエネルギーに描く。

『羅生門』予告編

一九五〇製作／大映京都／白黒／三分
●助監督時代の作品。本編と異なる印象の予告編の為、黒澤明監督と衝突したことは有名。

『剣・縄張』

一九六七放映／カラー／白黒／五一分
脚本：野田正博 出演：藤村トシ子、河村有紀
●唯一のTV演出作品。TV作品ながら、まぎれもない加藤泰世界となっている力作。

加藤泰映画をつらぬく主要テーマが最もストリートに表われ、躍動感と爽快感にあふれた傑作。大阪にやって来た車夫の辰五郎は芸者の喜美奴に一目惚れをするが、ひょんなことから、二度も結婚式を挙げざるはめになる。加藤泰作品に欠かせない女優の桜町弘子が可憐かつ芯の強いヒロインを好演し、また藤純子の加藤泰作品デビュー作でもある。

『幕末残酷物語』

一九六四年／東映京都／ワイド／白黒／九九分
脚本：岡譲明 撮影：鈴木則文、井澤一
美術：富田治郎 音楽：林光 出演：大川博、藤純子、河原崎長一、大友柳太朗、木村功、西村晃、内田忠雄

●殺りく集団としての新選組を真正面から描き、その描写の凄まじさから、公開当時には上映を拒否する劇場も現れた、フィルモグラフィの中でも重要な位置を占める異色力作。新選組に入隊した、気の弱い青年江波は、次第に人間性が変わっていき、そんな彼にはある秘密があった……。集団の中で人間の残酷さを映し出したモノクロ撮影と、新選組屯所を再現したオーブントセットの素晴らしい特筆に値する。

『明治侠客伝 三代目襲名』

一九五五年／東映京都／ワイド／カラー／九二分
原簿：紙屋五平 脚本：村松道平、鈴木則文
撮影：丸山龍雄 照明：古谷伸
美術：井川徳造 音楽：菊地隆
出演：船田浩二、藤純子、高橋英樹、藤田五五、津川雅彦、安部徹



●加藤泰 かつて、略歴

一九一六年八月二十四日、神戸生まれ。本名：泰通。叔父である名匠・山中貞雄の紹介で、三十七年に結の東京撮影所に入社。四一年に記録映画「潜水艦」で監督デビュー。嵐と女と旅鴉で独自のスタイルを確立し始め、六〇年代から七〇年代にかけて、『顔の母』『三代目襲名』『遊侠一匹』『緋牡丹博徒』シリーズといった傑作を連発する。松竹での大作三本以降、撮影所システムの崩壊と共に監督本数も激減し、八一年の『おんな博徒』が最後の劇場映画となる。遺作となった『鬼太鼓座』が最後の劇場映画となる。八五年六月十七日他界。



『鬼太鼓座』

『日本浪花伝』

『緋牡丹博徒 花札勝負』



『香掛時次郎 遊侠一匹』

『幕末残酷物語』

『明治侠客伝 三代目襲名』

『軍夫遊侠伝 喧嘩辰』